

北九州港西海岸地区の港湾施設を活用した地域づくりについて

井方 弘正¹・佐藤 鉄志²・松崎 和博³・竹林 沙織⁴

^{1,3,4}九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所 企画調整課

²九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所 第一工務課

(〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1-4-40)

北九州港西海岸地区において老朽化対策に取り組んでいる岸壁周辺は、門司港レトロとして歴史ある建造物や観光施設が集積している。最近ではクルーズ船寄港も再開される等にぎわいを取り戻しつつあり、港湾施設を活用した地域づくりについて発表する。

キーワード 北九州港, 門司港, 西海岸地区, みなとオアシス, クルーズ船, 地域活性化

1. はじめに

北九州港は、九州の東北端に位置し、本州との結節点として、古くから交通の要衝の地として栄えた国際拠点港湾である。また、国際航路のある関門海峡を中心に、東は周防灘、北は響灘に面し、内湾である洞海湾を含む約17,000haの広大な港湾区域、約170kmに及ぶ水際線、約3,700haの臨港地区を有している。西海岸地区は、門司港の発祥の地である西海岸埠頭を有する地区である。



図-1 北九州港全体図¹⁾

門司港は、歴史的背景から形成された観光地であり、クルーズ船が寄港する岸壁を有している。

当事務所では、アフターコロナを含む、西海岸地区でのにぎわい創出等、空間形成の検討や地域貢献を行っている。また、2020年（令和2年）度より西海岸地区の岸壁では

老朽化対策及び耐震改良工事を実施している。

西海岸地区は、5万総トン数のクルーズ船「飛鳥Ⅱ」までの中型クルーズ船が寄港可能な岸壁であるが、工事期間中は寄港できるクルーズ船が制限され、「飛鳥Ⅱ」は、観光資源が集中する場所から離れた埠頭に寄港せざるを得なくなっている。工事に伴うクルーズ船寄港の制限への対策と、工事期間中においても門司港の魅力を図ると共に、アフターコロナを見据えた港湾施設を活用した地域づくりを行うことが課題である。

2. 門司港成り立ち

(1) 門司港の歴史

門司港は、塩田で囲まれていた土地を埋立て、運河を開き、第一船だまり（現在の海峡プラザ前）を築港したことで1889年（明治22年）に石炭等を輸出する特別輸出港に指名され、外国貿易港となった。九州鉄道が熊本から門司（現在の門司港駅）まで開通すると門司港は鉄道の拠点となると共に石炭輸出基地となった。また、石炭商が軒をつらね、大阪商船等が進出し、門司港の人口は、1889年から4年間で4倍近く増加した。その後、北九州工業地帯が誕生すると、北九州全体に工場への原材料供給の需要が高まり、門司港は、多様な品目を扱う一般貿易港へ転換した。

当時の門司港は、貿易量の増加に対応する港湾施設の整備が不十分であった。そのため、1919年（大正8年）より国直轄の継続事業として西海岸埠頭における修築工事を

行い1931年（昭和6年）に完成し、国際港湾として繁栄した。太平洋戦争の時期には、港の機能が一時的に低下したが、高度成長期の臨海工業地帯造成により、海上貨物量輸送の需要が増加したことで港湾の重要性が高まった。

これに対応するため、国は港湾計画を策定し、門司港西海岸地区の整備を行った。

(2) 西海岸の発展

国際貿易港「門司港」の発祥地である西海岸埠頭は、明治期より昭和初期にかけて建設された。関門海峡に沿って岸壁と荷さばき施設が広がっており、戦前の門司港の主力埠頭として、大連航路、欧州航路など国際貿易の拠点として発展した。

当時は、石炭や精糖等の輸出、綿花や小麦等の輸入といった原材料の輸出入が盛んであった。また、バナナの荷揚げは、門司港が中心であったこともあり、門司港はバナナのたたき売り発祥の地として、現在に受け継がれている。



図-2 西海岸埠頭の大連航路見送り風景（昭和初期頃）²⁾

3. 西海岸地区の開発と発展

(1) 西海岸岸壁再開発事業

戦前は、定期航路が就航し、にぎわいを見せていた西海岸埠頭は、戦後になり老朽化の進行や船舶の大型化等でエプロン、荷さばき地の狭さが問題となっていた。また、関門トンネルや関門橋の開通により、九州と本州を結ぶ物流結節点としての役割も薄れていた。

これらに対処するため、大型船舶に対応した埠頭の建設と背後の荷さばき地の確保を目的とし、1983年（昭和58年）より国の事業にて岸壁を沖側に前出する工事に着手し、1989年（平成元年）に水深11mの岸壁2バースが完成した。併せて、背後地を荷さばき用地等として活用するための埋め立て工事も完了した。

工事完了時は、公共ふ頭として利用されていたが、社会経済環境の変化に伴い1996年（平成8年）より1バースが旅客船埠頭に利用目的が変更された。



図-3 西海岸埠頭の狭い荷さばき地（1982年頃）³⁾

(2) 門司港レトロと西海岸地区のにぎわい

貿易港として発展した門司港であったが、産業構造や周辺交通体系の変化により、かつてのにぎわいは失われつつあり、市街地に顕在する歴史的な建造物も解体の危機に晒された。そこで、これらの資源を活用し、都市型観光拠点として整備するため、北九州市による門司港レトロ事業が実施された。

第1期事業が1988年（昭和63年）度から1994年（平成6年）度実施され、国の支援により「旧大阪商船」の修復等、歴史的建造物保存や観光施設の案内看板設置、回遊路や展望台の整備が行われた。

ウォーターフロントでも、港湾緑地等の整備、門司港第一船だまりの「親水護岸広場」の建設及び「はね橋」の建設、旧門司税関の修復等も併せて行われた。

これらの整備により、観光客が1994年（平成6年）度の門司港レトロオープン前、26万人から107万人に増加し、知名度が向上した。



図-4 門司港レトロと西海岸地区

第2期事業が1997年（平成9年）度から2007年（平成19年）に実施された。

更なる回遊性の向上と滞在時間の長時間化を図るために、第2期事業では、「門司港レトロ展望室」の整備の他「海峡ミュージアム」や「門司港ホテル」、レストランや観光物産館を併設した「海峡プラザ」が開業し、2003年（平成15年）には255万人の観光客が訪れている。

また、門司港レトロの整備と併せ、官民によるまちづくり団体「門司港レトロ倶楽部」が設立され、周辺のにぎわいづくりに寄与している。

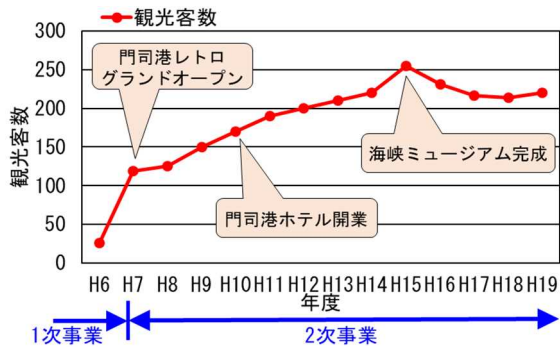


図5 門司港レトロ事業実施中における観光客数の推移⁴⁾



図6 旧門司税関 (上:修復前⁵⁾, 下:修復後)

(3) 西海岸地区付近で開催されるイベント

門司港では、門司港レトロマラソン、クラシックカーラリー、門司港イルミネーション、門司港ボート天国等さまざまなイベントが開催され、地域の活性化に繋がっている。特に5月に開催される「門司みなと祭」は、1934年(昭和9年)から行われている歴史ある祭りで、メインのパレードは、西海岸地区から出発する。

当事務所は、西海岸地区に位置し、各イベント会場に近接しており、イベント時には、ボランティアとしてイベントの手伝いや清掃活動を行い、地域貢献に努めている。また、「門司みなと祭」や「門司港ボート天国」では、パネル展を開催することで、ご来場の方に当事務所の取り組みについて紹介を行っている。



図7 門司みなと祭 (西海岸地区に寄港した帆船)

(4) みなとオアシスの登録

みなとオアシスは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、2003年(平成15年)に設立した。住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設とし、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録する制度である。全国で151か所、九州で22か所(2022年(令和4年)5月現在)登録されている。

門司港では、このみなとオアシスに「みなとオアシス門司港」として2019年(令和元年)11月15日に登録された。また、「みなとオアシス門司港」登録施設の内、交流・休憩、情報提供、災害支援等を提供施設より構成する代表施設として、西海岸地区に位置する「旧大連航路上屋」が選出されている。

当事務所は、「みなとオアシス門司港」の運営団体である「みなとオアシス門司港協議会」の会員「門司レトロ倶楽部」にオブザーバーとして参加しており定期的に会議等に参加している。ここでは、「みなとオアシス門司港」の活動状況を把握し、対応可能な範囲で情報発信やボランティア活動といった支援を行っている。



図8 みなとオアシス門司港の登録施設

(5) 西海岸地区のクルーズ船寄港

クルーズ旅行は、大きな船で大海原に乗り出すことにより非日常を味わえる旅行スタイルである。船内では、朝昼晩と豪華な食事を楽しむことができ、劇場等のエンターテイメント施設、スパやジム等のリフレッシュ施設も充実しており、航海中も飽きることのない工夫が凝らされている。こうしたクルーズ旅行の魅力は、徐々に日本人旅行者にも理解されるようになり、クルーズ観光人口は、増加傾向にある。

北九州市には、最大16万総トン数までの大型クルーズ船が寄港できる響灘地区と、最大5万総トン数までの中型クルーズ船が寄港できる西海岸地区に分かれている。

西海岸地区は、日本船社の「飛鳥II」や「ぱしふいっくびいなす」等のほか「ル・ソレアル」や「アザマラ・クエスト」等の欧米船社のクルーズ船も寄港する。中でも外国船社は、年々増えており、2019年(令和元年)は、年間10回の寄港の内、外国船社は9回(欧米船社8回、中国船社1回)寄港している。

西海岸地区は、門司港レトロ地区や国指定重要文化財

である門司港駅等,多くの歴史的観光資源を有し,徒歩にて散策可能な環境であるため,短いクルーズ船乗客の滞在時間でも十分満足できる.また,欧米の観光客は,日本の歴史を体験できる事も人気の一つであると考えられる.

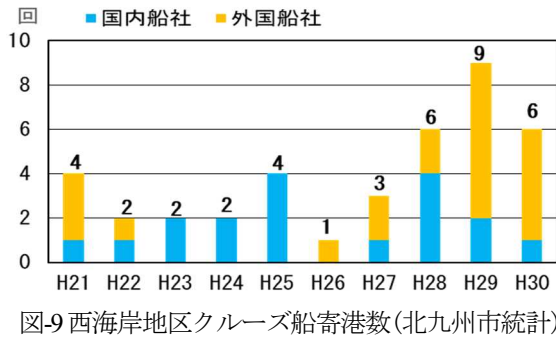


図-9 西海岸地区クルーズ船寄港数(北九州市統計)

4. 西海岸における最近の情勢と取り組み

(1) 新型コロナウイルス発生に伴う観光客の減少

門司港へ訪れる観光客数は2007年(平成19年)度より200万人程度を維持していたが,新型コロナウイルス発生により,観光客が大幅に減少した.令和2年度の観光客数は,従来の半分以下の91万人となった.

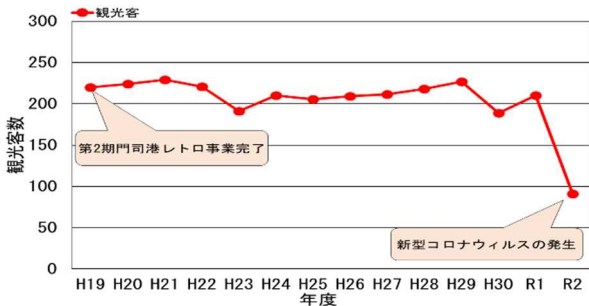


図-10 門司港レトロ事業実施後における観光客数の推移⁴⁾

(2) 西海岸地区の岸壁の老朽化

1989年(平成元年)に完成した西海岸地区の岸壁は,戦後,国の事業にて施工後,現在,供用後30年以上経過し,詳細調査の結果,老朽化による岸壁機能の低下が確認されている.上部工には,舗装劣化や係船柱,車留め等の損傷や腐食,下部工には,構造を支える鋼管に経年腐食の進行により,肉厚の減少や孔食が発生している.また,災害時の緊急物資輸送岸壁として計画されているため老朽化対策と併せて耐震性強化を実施している.



図-11 鋼管の腐食及び孔食状況

(3) 西海岸地区の老朽化対策方針

老朽化及び耐震性強化の対策方法は,下部工鋼管は,腐食及び孔食箇所に当て板溶接による増厚や,さや管による補強のほか,必要に応じて,上部工や係船柱等の更新を行う.この対策は,2020年(令和2年)度に老朽化等の対策に着手し,2026年(令和8年)度の供用を目指している.

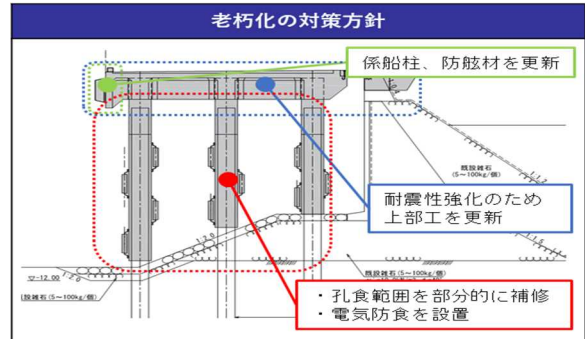


図-12 老朽化対策方針

5. 西海岸地区における港湾施設を活用した地域づくり

(1) 西海岸地区における港湾施設を活用した取り組み

(a) クルーズ船寄港の再開への取り組み

順調に増加していたクルーズ船の寄港は,新型コロナウイルスの影響により受入が中断された.その後,クルーズ船の旅客や港湾関係者等の安全・安心を確保するために,国が検討を行い,関係業界団体がクルーズ船及び受入港の感染予防対策に関するガイドラインを公表した.また,国は,邦船各社に感染症対策マニュアルの提出を義務化し,監査を実施している.邦船各社は,提出した感染症対策マニュアルの実施や有症者発生対策訓練等を行っている.

当事務所における取り組みとしては,新型コロナウイルス感染者が発生した場合に,即時対応ができる体制を,北九州市や船社,保健所,港湾関係者等が連携し,緊急連絡網や初動体制を整えた.これらの取り組みにより,西海岸地区での本格的な国内クルーズ運航が,2021年(令和3年)10月より再開しており,前年度は4回,今年度は5回(6月末時点)寄港している.今後,更にクルーズ船寄港の増加が予想される.



図-13 今年5月に寄港した「こっぽん丸」

西海岸地区の岸壁を含めた港湾施設は、地域づくりに欠かせないものであり、工事期間中においても、周辺のにぎわいやクルーズ船寄港に寄与できるよう工夫を施している。工事期間中に、3万総トン数までのクルーズ船が着岸できるよう工事ヤード内に仮設係船柱を設置している。また、「飛鳥Ⅱ」のような5万総トン数以上のクルーズ船寄港に対応するための段階的整備を行っている。

西海岸地区の工事箇所とその背後地は、災害時の緊急物資輸送等の拠点やクルーズ船寄港に伴うイベント広場として活用されるため、本工事が完了し、船が着岸できる環境を早期に整え、地域活性化に努めることが重要である。

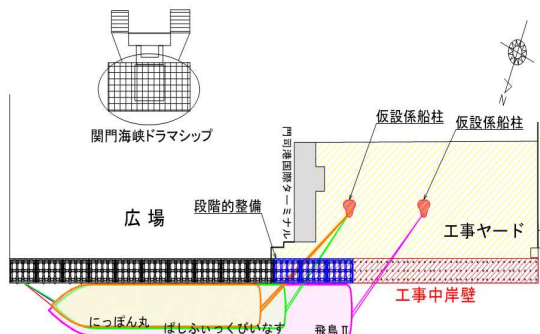


図-18 クルーズ着岸時の係船想定図

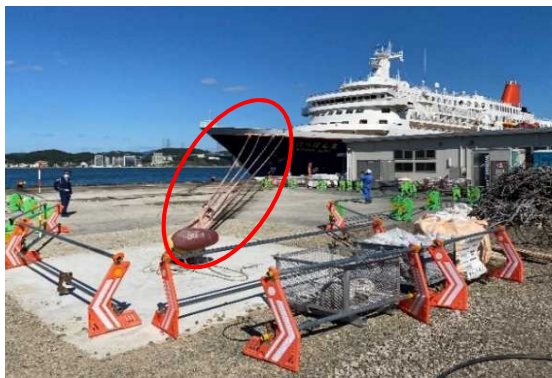


図-19 実際の仮設係船柱利用状況

6. おわりに

本稿では、北九州港西海岸地区における港湾施設を活用した地域づくりについて紹介を行った。西海岸地区は門司港発祥の地として栄え、当時のにぎわいを感じさせる施設を有効活用した門司港レトロをオープンし、今では多くの観光客でにぎわいを見せている。また、多くの観光資源が備わった地であるため、クルーズ船の寄港が増加傾向にある。

新型コロナウイルスの影響により、一時的に観光客の減少も見られたが、現在は、かつてのにぎわいが戻りつつある。また、「みなとオアシス門司港」の活用や複合施設の建設事業も進んでおり、更なる地域のにぎわいが形成されることが予想される。

今年度も当事務所において、にぎわい創出や地域活性化を目的とした空間形成の検討を予定しており、今後も、港湾施設を活用したより良い地域づくりに貢献していきたい。

参考文献

- 1) 地理院タイルに地名をに追記して掲載
- 2) 北九州の港史 北九州市港湾局 P249
- 3) 門司港五十年の歩み 運輸省第四港湾建設局 P11
- 4) 北九州市観光動態調査 <https://www.city.kitakyushu.lg.jp>
- 5) 海峡の街門司港レトロ物語 北九州市 巻頭
- 6) 北九州市HP 門司港レトロ地区臨海部開発事業
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kou-ku/08600049.html>
- 7) 令和3年度北九州港を核とした地域活性化方策整理業務報告書